

高岡市教育将来構想検討会議
第1回学校教育小委員会 議事録

・日 時 平成30年4月25日(水) 10:00～

・場 所 高岡市生涯学習センター6階 特別会議室

事務局：多田委員に委員長をお願いしたいと思うが、いかがか。

一 同：異議なし。

委員長：副委員長に在田委員を推薦したいがいかがか。

一 同：異議なし。

委員長：まず協議事項の1「小中一貫教育の推進の方策」について、事務局より説明をお願いしたい。

事務局：資料1に基づいて説明。

委 員：県内で小中連携・一貫校はあるか。

事務局：現在はない。南砺市の井口小学校・井口中学校で調査研究をしており、実施する方向で進んでいる。また、氷見の西部中学校に入る統合小学校についても、選択肢の一つに入れているとのこと。

委 員：国立だが、富山大学附属小学校・中学校は建物が併設しているが、これは該当しないのか。

事務局：併設しているが、それぞれ独自に教育を行っている。また、芝園小学校・中学校も一体型の施設であるが、それぞれ独自に運用している。連携はしていると思うが。

委員長：それでは、協議事項2の「五位中学校区整備の基本的な方向」について、事務局より説明をお願いしたい。

事務局：五位中学校区の生徒数の推移・施設の現状について、資料2-1をもとに説明。人口分布について資料2-2をもとに説明。

委員長：意見・感想等あれば発言をお願いしたい。

委 員：3つの小学校を統合して、小中の連携校にしたいということだが、人口動態等を見てもそれで正解だと思うが、遠い地区の人についての交通手段についてはどうするか。公共交通機関はないところだと思うが。

事務局：ご指摘のとおり、従来徒歩で通えたが、難しくなる地区の児童が出てくる。福岡小学校はすでにスクールバス等を活用して送迎しているので、それを参考にして、新しい学校でもスクールバスを配置していきたいと思っている。

委 員：そのようにお考えであれば、他の地区でも同様のことだと思うので、問題ないと思う。五位中学校の建物はあと何年持つと考えているか。

事務局：耐震工事をしているとはいえ、いずれ建て替えが必要だと考えている。

委 員：耐震工事が入っているので専門的な数値は分からないが、中は綺麗である。当初の計画

だと統合小学校は、五位中学校の近くに新しい校舎を建設して、連携の仕方を考えていくということによろしいか。

事務局：そのとおりである。補足して説明させてもらおうと、何度か統合協議会を開催した中で、地元のほうから中学校の隣接地で用地を求めてほしいという要望があった。それを踏まえて該当地の目途をつけた段階である。用地買収については、相手もあり、内部的には予算の確保の問題もあるので、順次クリアしていかなければならない。敷地としては、隣接地として考えている。建物については、文科省の方で耐用年数が50年程度とのことである。長寿命化の話も出ているが、五位中学校については50年近く経っているので、まずは統合小学校を出来るだけ早く建設して、その後に中学校の老朽化が著しくなったときに整備できれば、地域の方の要望にも応えられるのではないかと考えている。

委員長：この検討会議は小委員会も含め、非常にハードスケジュールとなっている。なおかつ、小中一貫教育、五位中学校区の整備の基本方針についても中身をご確認いただいて2か月で意見を出していきたいと思う。公表されるとすれば、なかなか意見が言えないということもあると思うが、その点についてはいかがか。

事務局：県の高校再編会議についても、一部秘密会が開催されている。それに準じて、個別・具体的に議論する際には発言しにくい状況も出てくると思うので、ご相談させていただいて、配慮したいと思う。

委員長：真剣に議論するわけなので、その配慮についてはしっかりしていただきたい。

事務局：はい。

委員長：今一度質問・意見はないか。

委員：統合小学校のスケジュール感は出ているか。

事務局：地元とは協議しており、地元の「出来るだけ早く着手してほしい」という話に、我々の財政的な準備が整っていない状態で、地元には申し訳ないと思っている。

委員：五位中学校区についても、小中連携を推進すると思うが、先ほど言っていた小中一貫や義務教育学校は、また別の話か。

事務局：義務教育学校については9年間一貫しているので、我々からしたら新しいスタイルになると考えている。一貫教育の場合は、それぞれ校長を配置して、従来の6年と3年をより円滑に繋いでいけると考えているので、決して特別な難しい仕組みを新たに取り入れる風なものではない。

委員：義務教育学校も範疇に入ってくるということか。

事務局：義務教育学校も一つの選択肢として入ってくる。

委員：小中一貫については、1小1中として考えるのか、五位中学校区についてのみ考えるのか。

事務局：市内小中学校全体で小中連携教育について検討を進めてほしいとお願いをしている。基本的には高岡市においては、小中一貫教育が特別なものではなく全ての学校で、小学校・中学校の教員が相互に交流しながら9年間で地域と子どもを育てていくという高

岡方式が普及していけば有り難いと思っている。その中で学力や、多様な能力を伸ばしていく、それが地域の皆さんから認められて、「子どもを育てるなら高岡で」という方向にしていきたい。冒頭のスライドで説明したが、富山市のほうに向いている視点もある。30年後の県内の富山市の子どもの割合が40数%と割合が高まって、高岡の割合が若干低くなるというのは、富山市の一極集中になってしまうので、今が高岡の踏ん張りどころだと思っている。その一つのきっかけづくりとして、一貫教育を重視していきたいと考えている。併せて、例えば石堤小学校を統合した際に土地の活用の問題が出てくるかと思う。これについても、ご意見を頂ければ大変有り難い。公民館もそうであるが、地域の核として学校は長年役割を果たしてきている。何らかの形で、地域の皆さんに納得していただけるようなものを。新しい学校については、より内容の濃い、より質の良いものを求めていく。単に学校をなくして1つにただけでは、再編統合が上手くいかないと考えているので、その点についてもご意見を頂きたいと考えている。

委員：五位中学校区の統合後について、ひとつの考え方として、防災の観点から、例えばの話だが、避難所あるいは何かの施設として残しておくという考え方もあると思う。福岡では、防災施設として何かしらコンクリートの施設を残してほしいという声も出ていた。

事務局：現に学校が避難施設として指定されていることを踏まえながら十分検討していきたいと思う。

事務局：また、次回に向けて準備・検討を進めさせていただく。

以上